

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671400236	
法人名	有限会社 おりの	
事業所名	グループホーム ほかほか	
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1	
自己評価作成日	令和3年2月25日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

徳島県最南端の海陽町穴喰地区に施設があり、過疎、高齢化が進んでいる。入居に関しては、医療面でのニーズが高く、協力医療機と密に連携を図っており、看護師も3名配置し、急変時は総合病院とも連携を図っており医療面のバックアップ体制は整っている。看取りに関しても協力医療機関Drご家族との話し合いで希望があれば看取り支援を行い医療機関と連携を図り、住み慣れた地域で最期まで生活を送って頂けるよう対応している。施設周辺は海、山に囲まれており、自然豊かな場所で、静な場所でゆっくりと入居者様のペースで安心、快適に生活が送れるよう「温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援致します。」の理念に沿って寄り添いながら介護支援に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海と山が近く、自然に恵まれた環境に位置している。敷地内に、同一法人が運営する他サービス事業所が併設している。日中のレクリエーションや行事などの際に連携・協力することで、利用者同士の交流を図っている。近隣に協力医療機関もあり、利用者一人ひとりの状態や医療ニーズにもとづいて連携を図っている。緊急時にも24時間対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心につなげている。管理者は、「利用者のためになること、改善につながることは、まず挑戦してみる」ことを大切に捉え、職員からの意見や提案を積極的に取り入れるよう努めている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、職員間でできることを話しあい、終息後のビジョンも踏まえつつ、支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ぼかぼか開所時の理念が法人の理念にもなっており、朝礼後に職員で唱和を行い、全員で共有して介護支援に取り組んでいる。	事業所では、開設当初に作成した理念にそって、利用者に温もりとやすらぎを感じてもらえるよう支援している。朝礼時に理念を唱和し、職員間での共有化を図っている。また、パンフレットやホームページにも記載し、家族や地域等にも周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、地域の保育園児やボランティアの方々の慰問等があったも、今年度に関しては、感染対策として地域との交流は行えていない。	事業所では、学生ボランティアの来訪を受け入れたり、秋祭りの際に近隣住民から協力を得たりして、日常的に地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、職員が地域の消防団の訓練に参加するなど、地域との関係性が途切れないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居する、しないに限らず、地域の方々からの相談等対応し、住み慣れた地域で出来るかぎり生活を送れるよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策として議場での開催は行えていないも、推進委員の皆さんに、施設の現状や取り組みを2か月に1回報告している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族等、町の担当者、民生委員、社会福祉協議会、近隣駐在所職員などの出席を得ている。感染症の流行にともない、書面会議を開催している。出された意見等は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当の方とは密に連携を図り、町への提出物は郵送ではなく、直接窓口へ届、顔見知りの関係を作り、分からない事などあれば、相談も行っている。	職員は、毎月、町の担当窓口を訪問し、状況報告や相談等を行っている。町主催の会議にも出席し、地域の情報収集や意見交換を行うなど、協力関係を築いている。また、随時、電話やファックス等で相談し、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修等行ったり、朝礼時等に職員同士で話しあい、拘束なく安全に生活が送れるよう工夫し、快適に生活が送れるよう支援している。	事業所では、3か月に1回、身体拘束の内容や弊害について、職員間で学ぶ機会を設けている。日ごろの支援においても、職員間で注意しつつ、拘束をしないケアに努めている。日中は、玄関を開放し、利用者本位の支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の朝礼時等で処遇についても考える機関を設けて、日々の支援が適切に行えているかの確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人の他の事業所に成年後見人の方がおられ制度に関しての再度学習が行い、関係の方々とも連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に詳細を説明し、契約後も介護保険等改定、契約内容変更時は電話、文書等にて連絡、承諾を得て変更を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望があれば可能なかぎり答えられるよう、職員同士で話し合っ、管理者へ許可を取って行っている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の意見や要望等を聞き取っている。午前中にティータイムを設けて、一人ひとりから意見等を得ている。感染症の流行下においては、ガラス越し面会などにより、家族等から意見を得ている。出された意見について協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎朝の朝礼時等に改善点等意見が出た場合は可能な限り反映できるよう対応し、上手く行かない場合も一度はチャレンジする体制を整えている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員からの意見や提案等を聞き取っている。“失敗しても、まずはやってみる”という意識を共有し、職員が積極的に提案することのできる環境を整備している。出された提案等について協議し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より上の資格が取りやすい環境を整え、個人のスキルアップ、昇給や、働き甲斐、働きやすい環境を提供できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実践者研修等積極的に参加が行える体制を整え、個人、職員全体のスキルアップが図れよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議やケアマネ研修等で他施設の方と交流を図りネットワークの構築、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か訪問したり、実際に施設に来ていただき、話しを重ね、不安に思っている事をなるべく除去出来るよう、本人さん、家族さんとの関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんが一番心配されるのが医療面の事であり、医療面のバックアップの説明を行い、看取りまでの支援が可能である事伝え少しでも不安を取り除けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH入居ありきではなく、その人にあった介護サービスが受けれるよう見極め、本人さん、家族さんケアマネを含め他事業所とも連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人さんに寄り添いながら、近い関係を保ち、人生の先輩である事を忘れず共に生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により、感染対策として面会に関しては制限が掛かっており、窓越し面会やラインを使ったオンラインでの面会を行っている。月に1回はアルバムを作成して近況の様子が分かるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて感染対策で外出が行えず、直接会っての面会も行えない為、窓越し面会、オンライン面会など工夫をして馴染みの関係が途切れないよう対応している。	事業所では、同一法人が運営する併設の他サービス事業所と連携を図り、利用者同士で交流するなどして、関係性の継続に努めている。感染症の流行下においては、オンライン面会を実施したり、写真や手紙等により連絡を取ったりして、関係が途切れることのないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを大切にしながらも、他の入居者の方々との交流も図れる時間を作り、一緒になって作品を作ったり、ゲームなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩し入院された場合は以前の様に頻りに様子は見に行けないも、病院の地域連携室と密に連絡を取っている。他の施設移られた場合も家族さんやケアマネ等に近況の状態を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人様、家族様の意向に沿えるよう職員間で話しあい、管理者や医療面に関わってくる場合は協力医療機関Ns、Drに相談し希望等に少しでも沿えるよう対応している。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの思いや意向等を把握するよう努めている。意思の表出が困難な場合は、家族等から情報を得て、表情や仕草などに気を配りつつ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時入居契約の説明時に詳しく聞きとりを行ったり家族様にバックグラウンドを記入して頂き情報収集を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わった事があれば、朝礼時に話し合ったり、すぐにNs等に報告を行い、体調面の安定ADL面低下防止、認知症状進行防止が図れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは朝礼時に話し合いケアプランの作成を行う。家族様の参加は難しい状況ではあるも、支払い時に来られた際や、電話連絡等した際に意見等頂いている。	事業所では、利用者や家族、協力医療機関の医師・看護師などの意見を踏まえた介護計画書を作成している。毎月、モニタリングを実施して、計画を確認している。また、本人の心身状況の変化に応じて、随時見直しを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	表情や行動の変化を記録し変わった事があれば朝礼時等に話し合い介護計画に反映したり、介護支援の共有も図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居されている方々が高齢であり、医療面での要望や心配が多く、協力医療機関と連携を図り密に様子観察等を行い、希望があれば看取りまで支援が行えるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出等はいえない状況ではあるも、Dr管理者等の承諾の下感染対策を行い地域の美容室、床屋さんによる訪問散髪は行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関Drが往診に月～土来られておりNsとも連携を密に図っており、病院受診等必要な場合はDr、Nsより家族様に状態説明を行い希望された場合は総合病院へ受診や入院等行える環境が整っている。	事業所では、利用者や家族等に説明・同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。日常的に往診や健康管理を受けるなど、協力関係を築いている。専門医や歯科を受診する際は、職員が付きそい支援を行うなど、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関NsがGHへ配置されており、夜間の急変時も電話連絡がとれる体制が整っている。少しでも変わった事があればNsに報告し、必要であればNsよりDrに指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前に比べ頻繁に病院へ行けない状態であるも、病院の地域連携室と密に連絡を取り入院の状態把握や退院の調整等を行い、協力医療機関NsDrへ報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化についての説明を行い、実際に重度化になった場合は、本人様、家族様の意向を確認しDr家族様との話し合いにて今後の対応を決定し、職員へ周知を行い医療、介護、家族様で支援をおこなっている。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明している。本人の心身状況の変化に応じて、家族や協力医療機関の医師等と協議しつつ、チームで支援に取り組んでいる。また、看取り支援について、定期的に研修を開催し、サービスの質の向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関NsがGHIに配置されており、急変時はすぐに状態報告でき、夜間帯も電話連絡が取れる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は毎年11月、3月に開催し昼間、夜間想定で行っている。津波避難も3月に行い、避難場所まで誘導し、避難経路の確認等行っている。	年3回、避難訓練を実施している。日中・夜間の火災や津波等を想定し、通報や消火、避難誘導など、実践的に取り組んでいる。また、地域の福祉避難所として町から指定を受けたり、地域の防災訓練に職員が参加したりして、地域との協力体制の整備にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに関しては特に注意し、管理者も朝礼時等に注意、指導を行っている。また職員間でも気になった事があれば注意し合い、入居者様のプライバシーを守れるよう支援している。	職員は、毎日の朝礼や研修などの機会に、利用者の尊厳や権利擁護について話しあい、意識の共有化を図っている。支援のなかで、一人ひとりの誇りやプライバシーを損なうことのないよう、さりげない声かけ等を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	密にコミュニケーションを図り、認知症状進行等により意思疎通が難しい場合でも表情等で入居者様の想い等を感じ取り支援が行えるよう職員同士で随時話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は入居者様の個々のペースに合わせて支援を行い、出来るかぎり自身のペースでゆっくりと過ごして頂けるよう、随時職員同士で話をして共通の援助が行えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った服装や髪型等、本人様、家族様の意向もくみ取りながら、更衣や正装、散髪などの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に自宅等で使用していた湯呑みやコップ箸などを持ってきて頂き、使い慣れたもので食事を楽しくして頂いている。調理は一括して厨房で作っておりGHでは刻みや、ミキサー等を行う。月1回は手作りおやつを作っている。	食事は、同一法人が運営する他サービス事業所の厨房で作られたものを提供している。利用者一人ひとりの状況にあわせて、食事形態を変更したり、代替食を用意したりしている。誕生日には、好みの食事を準備するなど、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関と連携を図り、栄養状態が悪い場合はDrNS相談によりカロリーの高い食品を摂取して頂き栄養面が補えるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行えない方がほとんどであり、毎食後介助を行いうがいができない方もおられる為その人にあった口腔ケアを行い、口腔用のスポンジやガーゼ等を使用し口腔内清潔保持、誤嚥等の防止を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中に関しては出来る限りトイレでの排泄が行えるようトイレ介助を行い、立位が不安定な方も座位が保てる場合は2名介助を行っている。夜間はバット交換で対応し、睡眠を優先している。	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しつつ、声かけや誘導等を行っている。協力医療機関の専門職からの助言をもとに、排泄の自立や機能回復に向けた支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取等こまめに取れるよう対応し、3日以上になればNsに報告を行い、浣腸や摘便等の対応や便の出やすくなる薬等服用し便秘予防を図っていく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢化に伴い特浴での入浴の方が増えてきており一人週2回程度の入浴となっている。入浴時間は午後からでゆっくり入居者様のペースで行う、季節に応じたゆず風呂や菖蒲風呂などで季節感を味わって頂く。	事業所では、週2回は入浴することができるよう支援している。利用者の心身状況にあわせて、特殊浴槽の活用や複数人による介助なども行っている。また、季節に応じて、ゆず湯やしょうぶ湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に関しては昼食後から15時ぐらいまでは横になり休んで頂き、疲れ等の軽減を図っている。夜間に関して睡眠がしっかりとれる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Nsより服薬に関しては常時指示を仰げる体制であり、新しく薬が出た場合はNsより職員へ周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好きな物等は入居前に家族様からの情報と入居後の様子を合わせて対応して、意欲的に生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対応として外出は行えていないも、コロナ禍前は家族様と一緒に外出されたり、散歩やドライブ等にも出かけられるよう対応していた。	事業所では、家族等の協力を得つつ、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、少人数で近隣の公園に出かけるなど、少しでも外気を感じる機会を設けている。また、事業所内に手作りの鳥居を設けて、お参りができるようにするなど、利用者の希望に応じて工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面に関しては施設の立替にて対応して購入した際は全てレシートで何を購入したか家族さんへの説明が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に関しては制限かかっており特に県外の家族様とは電話連絡やラインを使ったオンラインでの面会を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をあじわって頂けるよう季節におおじた壁画を作成してリビングや廊下に展示している。リビングにはソファを配置し、ゆっくりと過ごして頂ける空間環境を整えております。	共用空間は、木造で温かみがあり、採光にも配慮している。毎月、季節にあわせて壁面の飾りを制作し、季節感を感じることができるようにしている。また、定期的な換気やアクリル板の設置など、感染症予防も徹底して取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	午後から横になって頂き、個々で過ごす時間も作っている。リビングで過ごす際もソファ等を配置してゆっくりと過ごせる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や昔の写真などを持ってきて頂き自宅で生活を送って頂いているような環境を整えられるよう支援し、入居者様の状態におおじて配置等の変更も行い居心地よく過ごせるよう対応している。	居室には、利用者の馴染みの家具や写真などを持ち込んでもらっている。家具等の配置にも配慮して、転倒防止に努めている。毎日、職員が居室の清掃を行い、居心地よく過ごすことができるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の安全を第一に考え、職員間で随時話しあい、向上につながるものであればまず1回はトライしてADL面等の向上が図れるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ぼかぼか開所時の理念が法人の理念にもなっており、朝礼後に職員で唱和を行い、全員で共有して介護支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は、地域の保育園児やボランティアの方々の慰問等があったも、今年度に関しては、感染対策として地域との交流は行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居する、しないに限らず、地域の方々からの相談等対応し、住み慣れた地域で出来るかぎり生活を送れるよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策として議場での開催は行えていないも、推進委員の皆さんに、施設の現状や取り組みを2か月に1回報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当の方とは密に連携を図り、町への提出物は郵送ではなく、直接窓口へ届、顔見知りの関係を作り、分からない事などあれば、相談も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修等行ったり、朝礼時等に職員同士で話しあい、拘束なく安全に生活を送れるよう工夫し、快適に生活を送れるよう支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の朝礼時等で処遇についても考える機関を設けて、日々の支援が適切に行えているかの確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぽかぽかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同法人の他の事業所に成年後見人の方がおられ制度に関しての再度学習が行い、関係の方々とも連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に詳細を説明し、契約後も介護保険等改定、契約内容変更時は電話、文書等にて連絡、承諾を得て変更を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望があれば可能なかぎり答えられるよう、職員同士で話し合っ、管理者へ許可を取って行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎朝の朝礼時等に改善点等意見が出た場合は可能な限り反映できるよう対応し、上手く行かない場合も一度はチャレンジする体制を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	より上の資格が取りやすい環境を整え、個人のスキルアップ、昇給や、働き甲斐、働きやすい環境を提供できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護実践者研修等積極的に参加が行える体制を整え、個人、職員全体のスキルアップが図れよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議やケアマネ研修等で他施設の方と交流を図りネットワークの構築、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か訪問したり、実際に施設に来ていただき、話しを重ね、不安に思っている事をなるべく除去出来るよう、本人さん、家族さんとの関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族さんが一番心配されるのが医療面の事であり、医療面のバックアップの説明を行い、看取りまでの支援が可能である事伝え少しでも不安を取り除けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GH入居ありきではなく、その人にあった介護サービスが受けれるよう見極め、本人さん、家族さんケアマネを含め他事業所とも連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人さんに寄り添いながら、近い関係を保ち、人生の先輩である事を忘れず共に生活が送れるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により、感染対策として面会に関しては制限が掛かっており、窓越し面会やラインを使ったオンラインでの面会を行っている。月に1回はアルバムを作成して近況の様子が分かるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて感染対策で外出が行えず、直接会っての面会も行えない為、窓越し面会、オンライン面会など工夫をして馴染みの関係が途切れないよう対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを大切にしながらも、他の入居者の方々との交流も図れる時間を作り、一緒になって作品を作ったり、ゲームなどを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩し入院された場合は以前の様に頻りに様子は見に行けないも、病院の地域連携室と密に連絡を取っている。他の施設移られた場合も家族さんやケアマネ等に近況の状態を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人様、家族様の意向に沿えるよう職員間で話しあい、管理者や医療面に関わってくる場合は協力医療機関Ns、Drに相談し希望等に少しでも沿えるよう対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時入居契約の説明時に詳しく聞きとりを行ったり家族様にバックグラウンドを記入して頂き情報収集を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変わった事があれば、朝礼時に話し合ったり、すぐにNs等に報告を行い、体調面の安定ADL面低下防止、認知症状進行防止が図れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは朝礼時に話し合いケアプランの作成を行う。家族様の参加は難しい状況ではあるも、支払い時に来られた際や、電話連絡等した際に意見等頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	表情や行動の変化を記録し変わった事があれば朝礼時等に話し合い介護計画に反映したり、介護支援の共有も図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居されている方々が高齢であり、医療面での要望や心配が多く、協力医療機関と連携を図り密に様子観察等を行い、希望があれば看取りまで支援が行えるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により外出等は行えない状況ではあるも、Dr管理者等の承諾の下感染対策を行い地域の美容室、床屋さんによる訪問散髪は行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関Drが往診に月～土来られておりNsとも連携を密に図っており、病院受診等必要な場合はDr、Nsより家族様に状態説明を行い希望された場合は総合病院へ受診や入院等行える環境が整っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関NsがGHへ配置されており、夜間の急変時も電話連絡がとれる体制が整っている。少しでも変わった事があればNsに報告し、必要であればNsよりDrに指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前に比べ頻繁に病院へ行けない状態であるも、病院の地域連携室と密に連絡を取り入院の状態把握や退院の調整等を行い、協力医療機関NsDrへ報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関しての説明を行い、実際に重度化になった場合は、本人様、家族様の意向を確認しDr家族様との話し合いにて今後の対応を決定し、職員へ周知を行い医療、介護、家族様で支援をおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関NsがGHIに配置されており、急変時はすぐに状態報告でき、夜間帯も電話連絡が取れる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は毎年11月、3月に開催し昼間、夜間想定で行っている。津波避難も3月に行い、避難場所まで誘導し、避難経路の確認等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぽかぽかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに関しては特に注意し、管理者も朝礼時等に注意、指導を行っている。また職員間でも気になった事があれば注意し合い、入居者様のプライバシーを守るよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	密にコミュニケーションを図り、認知症状進行等により意思疎通が難しい場合でも表情等で入居者様の想い等を感じ取り支援が行えるよう職員同士で随時話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は入居者様の個々のペースに合わせて支援を行い、出来るかぎり自身のペースでゆっくりと過ごして頂けるよう、随時職員同士で話をして共通の援助が行えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った服装や髪型等、本人様、家族様の意向もくみ取りながら、更衣や正装、散髪などの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に自宅等で使用していた湯呑みやコップ箸などを持ってきて頂き、使い慣れたもので食事を楽しんで頂いている。調理は一括して厨房で作っておりGHでは刻みや、ミキサー等を行う。月1回は手作りおやつを作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関と連携を図り、栄養状態が悪い場合はDrNS相談によりカロリーの高い食品を摂取して頂き栄養面が補えるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行えない方がほとんどであり、毎食後介助を行ううがいができない方もおられる為その人にあった口腔ケアを行い、口腔用のスポンジやガーゼ等を使用し口腔内清潔保持、誤嚥等の防止を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぽかぽかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中に関しては出来る限りトイレでの排泄が行えるようトイレ介助を行い、立位が不安定な方も座位が保てる場合は2名介助を行っている。夜間はパット交換で対応し、睡眠を優先している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取等こまめに取れるよう対応し、3日以上になればNsに報告を行い、洗腸や摘便等の対応や便の出やすくなる薬等服用し便秘予防を図っていく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	高齢化に伴い特浴での入浴の方が増えてきており一人週2回程度の入浴となっている。入浴時間は午後からでゆっくり入居者様のペースで行う、季節に応じたゆず風呂や菖蒲風呂などで季節感を味わって頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に関しては昼食後から15時ぐらいまでは横になり休んで頂き、疲れ等の軽減を図っている。夜間に関して睡眠がしっかりとれる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Nsより服薬に関しては常時指示を仰げる体制であり、新しく薬が出た場合はNsより職員へ周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好きな物等は入居前に家族様からの情報と入居後の様子を合わせて対応して、意欲的に生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対応として外出は行えていないも、コロナ禍前は家族様と一緒に外出されたり、散歩やドライブ等にも出かけられるよう対応していた。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭面に関しては施設の立替にて対応して購入した際は全てレシートで何を購入したか家族さんへの説明が行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に関しては制限がかかっており特に県外の家族様とは電話連絡やラインを使ったオンラインでの面会を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をあじわって頂けるよう季節におおじた壁画を作成してリビングや廊下に展示している。リビングにはソファを配置し、ゆっくりと過ごして頂ける空間環境を整えております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	午後から横になって頂き、個々で過ごす時間も作っている。リビングで過ごす際もソファ等を配置してゆっくりと過ごせる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や昔の写真などを持ってきて頂き自宅で生活を送って頂いているような環境を整えられるよう支援し、入居者様の状態におおじて配置等の変更も行い居心地よく過ごせるよう対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の安全を第一に考え、職員間で随時話しあい、向上につながるものであればまず1回はトライしてADL面等の向上が図れるよう支援している。		